

「JAようてい青年部ニセコ支部との意見交換会」議事概要

- 1 日 時 平成27年12月9日(水) 18:30~19:00
- 2 場 所 JAようていニセコ支所 金融2階会議室
- 3 テーマ ニセコ町の自治創生の取組について
- 4 進行役 金井自治創生室長
- 5 参加人数 14名(青年部員11名、JA職員1名、役場職員2名)
- 6 意見交換 下記のとおり

■人材確保(特に出面さん)の現状

(意見1)

農業後継者として経営主になっているが、出面さん世代の人脈は持っておらず、自身での確保は難しい。そのため、親世代からの繋がりがある方に来てもらっている。出面さんの高齢化は確実に進行中。

今年度、後志総合振興局が中心となり、冬期雇用を繋ぐ目的で「しりべし「まち・ひと・しごと」マッチングプラン」事業を行うと聞いている。その動向に期待している。

(意見2)

出面さんの確保は難しく、高齢化も進んでいる。現在、以前から来ている方に無理言って来てもらっているところ。出面さんの需要は通年ではなく、春の播種期と秋の収穫期に集中する。出面さんや後継者を紹介する人材派遣会社のような組織を考えてはどうか。

新しい人材の受入は、現地で指導するなど対応可能。とにかく人手の確保が急務となっている。

■農業のニセコブランドの進展

(意見3)

自分のまわりでは、トマト生産農家が連携し規格外品(通称:ハネ品)をジュースに加工して、道の駅やセブンイレブンで販売している。原料は規格外品のため、販売数が伸びてもなかなか増産に対応しきれないところがある。

また、近藤地区では、地域コミュニティセンターで味噌を製造して、道の駅で販売しているが、主事業くらいまで発展すると個々の負担が大きくなるので、片手間でやっている状況。

■ H27 補正予算の活用

(意見 4)

新しい作物や技術への支援を期待。

ニセコ町には営農可能な農地が不足している。農業後継者の規模拡大ニーズに対応できていない状況であり、新規就農者向けまで余地がないのが実態ではないか。

新規就農者の農地確保には、農業研修等の時期に、地域のみなさんの信頼を得ることが重要。

一旦、農業を離れて町外へ転出後、ニセコ町に戻るといった人の流れも出てきており、若い農家が結構見られるようになった。新規就農者よりむしろ、再チャレンジも応援する視点の方が必要ではないか。

■ 稼ぐ農業

(意見 5)

ニセコ町は広域農協の JA ようていの構成員であるため、生産物に「ニセコ」の名称を表示するのは、現段階では難しい。ニセコブランドの活用推進には、ニセコ町（行政）が、例えば単独農協を立ち上げるくらいの熱意と迫力を持って考えるかも重要になってくる。

(意見 6)

ニセコ町は風土的に色々な作物が生産可能。何でも多様にあることそのものを、ニセコらしさや強みとして活かしていけないか。

■ ニセコブランドの 1 つとして、グリーン農業を拡大させる方向性

(意見 7)

減農薬、減化学肥料の北海道の認証制度「YES!clean」が拡大しているが、できて当たり前の水準であり、農産物価格には影響していない。さらに進んだ、国のグリーン農業制度「特別栽培制度」も同様。

グリーン農業を進めるには、農産物の販売価格を高くできるかが鍵。ただし、多くの消費者は、美味しさだけでなく見た目も重視しており、グリーン農業によらない安い農産物を選んでしまうケースもあるのでないか。

■ニセコ独自の制度創設可能性

(意見8)

創設した場合、道の駅等で制度の情報を配信しても良いのではないか。

また、クリーン農産物の価格を高くして販売する場合、最初は多くの消費者が購入できても、継続できるのは、ごく一部の消費者に限られるおそれもある。

以上